

## 企画総務部

### ○感染症発生動向調査情報の即時双方向利用と可視的提供システムの開発

長谷川伸作

大同生命厚生事業団地域保健福祉研究助成 平成 16 年度調査研究報告書，財団法人大同生命厚生事業団，大阪，平成 16 年 12 月

感染症発生動向調査患者情報のデータベース化と，遠隔地から数値データや加工された情報を自由に閲覧できる（データベースとインターネットの連携により情報を引き出す）即時双方向性利用の技術基盤の整備を行う。保健所・医療機関・個人が求める区域単位・期間の感染症流行状況を数値・図表として，リアルタイムに入手し，現況を把握するシステムの構築を行う。また患者発生変動の定量的予測解析法ならびに警報・注意報発信プログラムの開発を行った。

### ○肥満予防対策事業

本間 寛，原田智史<sup>1)</sup>，山本 守<sup>1)</sup>，千葉昌樹<sup>1)</sup>，立花八寿子<sup>1)</sup>，中野道晴，桂 英二，西村一彦

北海道保健福祉部地域保健課，北海道立衛生研究所編，平成 15・16 年度地域保健推進特別事業—肥満予防対策事業—報告書，北海道立衛生研究所，札幌，平成 17 年 3 月

北海道民の肥満予防対策のため，12 市町村の 235 名の住民に対して冬，夏の 2 回，身体計測，安静時代謝量，運動量，血液検査，健康意識調査及び食習慣の調査を実施し，結果の解析を行い，基礎的資料を提供した。

<sup>1)</sup>北海道保健福祉部地域保健課

## 健康科学部

### ○放射能調査年報 47（平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月）

福田一義，佐藤千鶴子，横山裕之

北海道立衛生研究所健康科学部放射線科学科編，北海道立衛生研究所，札幌，平成 16 年 7 月

文部科学省の委託事業を主体とした北海道における環境放射能水準に関する平成 15 年度の調査結果をまとめた。降水の全ベータ放射能測定（試料数 123），降下物，上水，湖水，海水，農畜水産物，牛乳，日常食，土壌，海底土などのガンマ線放出核種分析値（試料数 58），農畜水産物のストロンチウム-90 とセシウム-137 の放射化学分析値（試料数 17）及び空間放射線量率（連続測定）の測定値に異常は認められなかった。

### ○先天性銅代謝異常症（ウィルソン病）の包括的医療システムの構築—3 歳児健診を利用したウィルソン病スクリーニングの導入—

中山憲司，斉藤明子，西村一彦，桂 英二，鈴木智宏，孝口裕一，加藤芳伸，澤田幸治，田村正秀，本間 寛，小林邦彦<sup>1)</sup>，有賀 正<sup>1)</sup>，藤枝憲二<sup>2)</sup>，高後 裕<sup>2)</sup>，宍戸直美<sup>2)</sup>，中村正雄<sup>2)</sup>，寺井 格<sup>3)</sup>，田村 守<sup>4)</sup>

北海道立衛生研究所編，北海道企画振興部重点領域研究事業報告書，北海道立衛生研究所，札幌，平成 17 年 3 月

ウィルソン病（WND）の指標となりうる尿中セルロプラスミン濃度の自動分析法を開発し，3 歳児健診を利用した WND スクリーニングを実施した。11,362 人の 3 歳児が WND 検査を受診し，2 名の銅代謝異常を呈する幼児を発見した。

<sup>1)</sup>北海道大学医学部，<sup>2)</sup>旭川医科大学医学部，<sup>3)</sup>北海道医療大学医療科学センター，<sup>4)</sup>北海道大学電子科学研究所

### ○北海道衛生検査所外部精度管理調査—生化学・血清学的検査，微生物学的検査—

斉藤明子，桂 英二，中山憲司，西村一彦，木村浩一，若森吉広，駒込理佳，小川 広，矢野昭起

北海道立衛生研究所編，平成 16 年度（第 15 回）北海道衛生検査所外部精度管理調査結果報告書，北海道保健福祉部，札幌，平成 17 年 3 月

平成 16 年度北海道外部精度管理事業として，道内登録衛生検査所に対し，生化学・血清学的検査及び微生物学的検査について精度管理調査を実施した。この結果についてデータの集計・解析を行い，報告した。

### ○免疫機能におよぼす亜鉛摂取とたんぱく質摂取の相互作用

斉藤明子，原 博<sup>1)</sup>

北海道食品科学技術振興財団編，平成 16 年度（No.10）調査研究報告書，財団法人北海道食品科学技術振興財団，札幌，平成 17 年 3 月，pp.25-35